

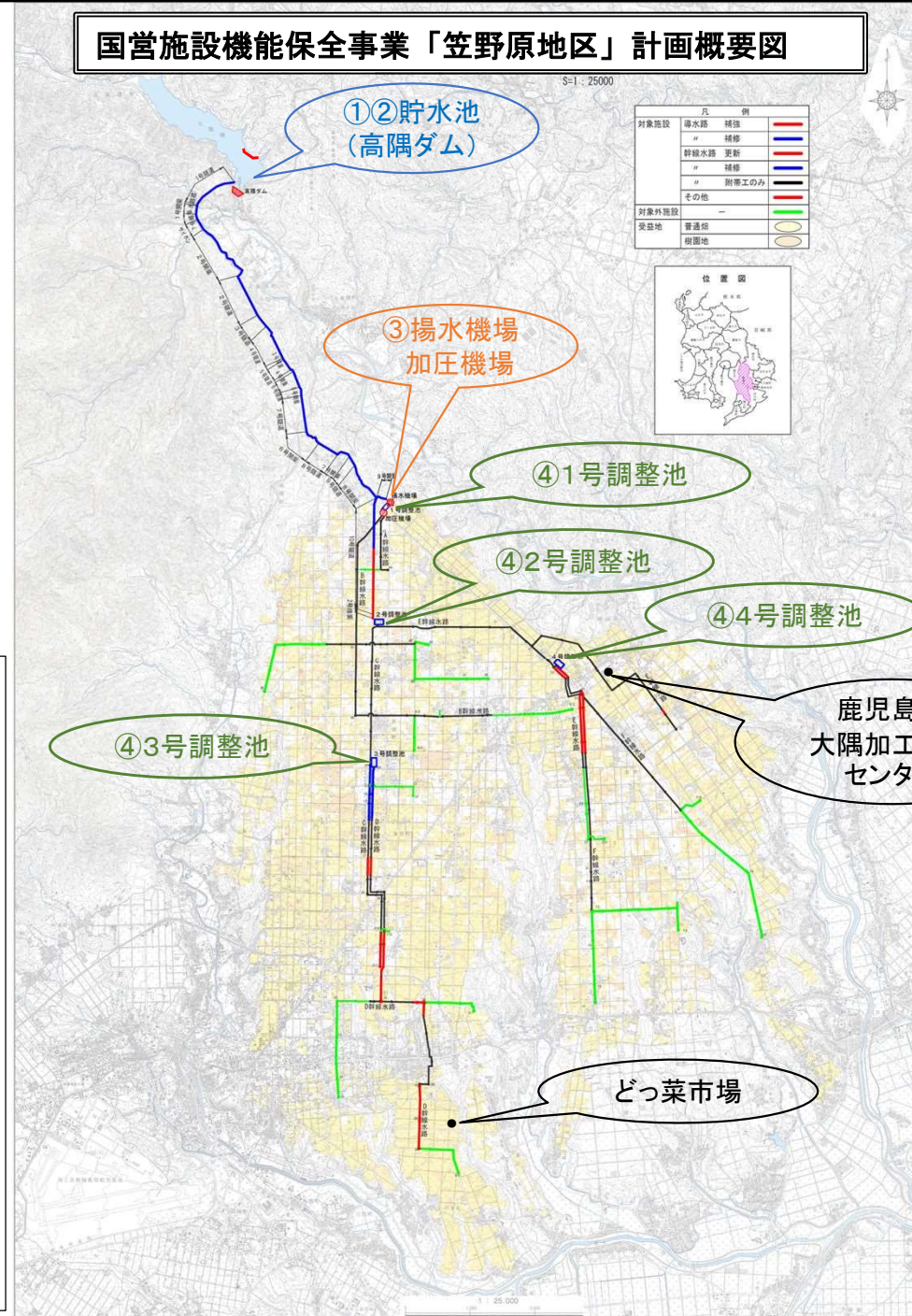
現 地 写 真 集

「笠野原地区」

九州農政局 南部九州土地改良調査管理事務所

国営施設機能保全事業「笠野原地区」 写真位置図

国営施設機能保全事業「笠野原地区」計画概要図



- 関係市町：鹿児島県鹿屋市、
肝属郡肝付町
- 総事業費：2,400百万円
- 受益面積：2,452ha(畑2,452ha)
- 主要工事：
 - (1) 高隅ダム貯水池法面对策工 1箇所
 - (2) 地区外導水路(改修) L=8.6km
 - (3) 幹線水路(改修) L=35.0km
 - (4) 調整池(改修) 4箇所
 - (5) 揚水・加圧機場(改修) 2箇所
 - (6) 水管理施設(改修) 一式
- 事業工期：
平成25年度～令和6年度(11年間)

①貯水池（高隈ダム周辺）



①貯水池（高隈ダム周辺）

高隈ダム貯水池全体航空写真

Google Earth画像(取得日2020年11月27日)



ダム法面崩壊部



②水管理施設

中央管理所(水管理施設)

管理棟



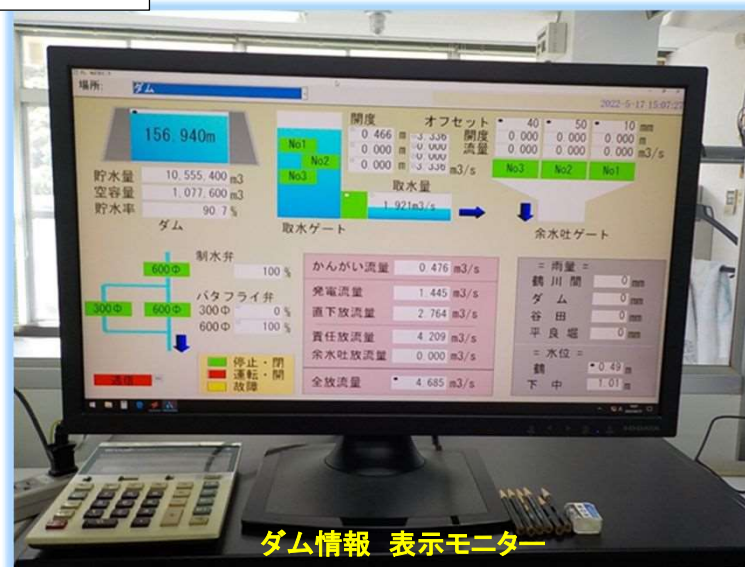
水管理設備操作盤



入出力インターフェース盤



パソコン



③揚水機場、加圧機場

三角揚水機場



三角加圧機場



④調整池

1号調整池



2号調整池



3号調整池



4号調整池



⑤ 幹線水路（管路）

継ぎ手からの漏水（F幹線水路）



継ぎ手ゴム離脱（D幹線水路）



老朽化による管体破損（E幹線水路）



老朽化による管体破損状況



⑤ 幹線水路（弁類）

制水弁の老朽化



仕切弁の老朽化



空気弁の老朽化①



空気弁の老朽化②



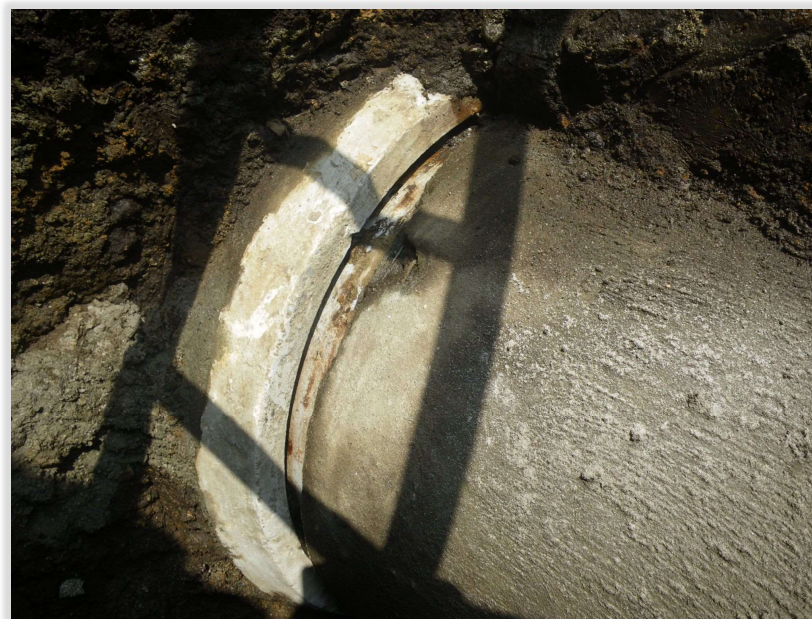
⑤ 幹線水路の漏水被害

道路陥没

F幹線水路 (H26.9.25)



継手部からの漏水



C幹線水路支線 (H30.6)



F幹線水路 (H26.9)



⑤ 幹線水路の漏水被害

農地等の浸水

C幹線水路 (H27.11.9)



管体の破損



C幹線水路 (R3.2)



B幹線水路 (H25.2)



営農関係

茶園



施設園芸(きく)



ピーマン



茶園



高い水圧の水と強風による害虫駆除



AIを使った無人茶摘み機の試行運用

営農関係

キャベツ



きゅうり



営農関係

かんしょ



さといも



営農関係

ごぼう



にんじん



芝



だいこん



営農関係

青刈リトウモロコシ



鹿児島県大隅加工技術センター



どっ菜市場





氏 名:枝元 貴久(50代)
労働力:3人(家族経営)
(経営内容)
茶(4.2ha)

Q 農業を始めたきっかけは

A : 祖父の代からこの地で農業を営んでおり、高校卒業して父親の後を継いでいる。

Q 畑地かんがい用水の利用状況

A : 主として防霜用水に利用（3月～4月）
その他、育成段階で適宜かん水として利用。

Q 畑地かんがい用水の利用のメリット

A : 防霜用水が欲しいときにかん水することができることから、一番茶が確実に収穫が可能となり、そのため収量及び収入とも増えたことが大きなメリット。

Q 今後の経営展望（or 新技術等の取組）

A : 近年は機械化が進み、作業が楽になった。
また、降灰対策の散水機器導入についても各種助成金があり、新たな機械を導入しやすい状況である。

Q 土地改良事業に期待すること

A : 祖父は笠野原開拓団として入植していると聞いており、農業用水が無かったころは野イネ、かんしょを栽培していたと聞いている。
昭和に入り笠野原かんがい排水事業にて整備された施設も老朽化が進み漏水が年に1～2回発生。
安定的な営農を行うためにも施設整備を願う。



茶



給水栓の操作状況



氏 名: 日高 光浩(60代)
労働力: 4人(家族経営)
(経営内容)
キャベツ(1ha)、里芋(0.3ha)
ショウガ(0.15ha)

Q 農業を始めたきっかけは

A : サラリーマン農家を行っていたが、退職してから専業として営農を行っている。

Q 畑地かんがい用水の利用状況

A : ショウガについては発芽時、夏場等の地温調整等でかん水し、水をあげるほど成長する。
キャベツは桜島の火山灰が降ることから、洗浄にも利用している。

Q 畑地かんがい用水の利用のメリット

A : 水が欲しいときにかん水することができることから、収量の安定化が図られて計画的に出荷が可能になったことが言える。

Q 今後の経営展望 (or 新技術等の取組)

A : 家族経営を行っており、高齢化が進んでいるが現在の耕作面積を維持して営農を続けたい。
昔、大豆や小麦も栽培していたので、機会があればまた再開したい。

Q 土地改良事業に期待すること

A : 土地改良事業が整備される以前は、なたね、かんしょ等を栽培し、農業用水は川または湧き水を汲んで貯水槽に溜めて利用していたため、大変労力を要した。
土地改良事業が整備されてから農業用水の確保については何の心配もなく、また営農も多様化出来るようになったため、恩恵を受けることができたので感謝している。今後は、現在の施設が老朽化していることから安定的な営農が行えるよう事業を継続的に実施して整備を進めてほしい。



ショウガ



キャベツ